令和２年度　臨床研究テーマ成果報告書

診療科（部）名：予防歯科

第３期中期目標・中期計画期間中の臨床研究テーマについて該当するものにチェックを入れてください。（塗りつぶし可）

□１．口腔領域における新規組織再生・再建法の開発
□２．高齢者の特性に配慮した口腔疾患の予防法・診断法・治療法の開発
☑３．顎口腔機能の維持増進に関する研究
□４．歯科医学臨床教育の質保証に関する研究
□５．その他

研究期間：令和２年４月１日～令和３年３月31日

研究課題名：歯周病発症予測指標の確立

研究課題の概要及び成果：

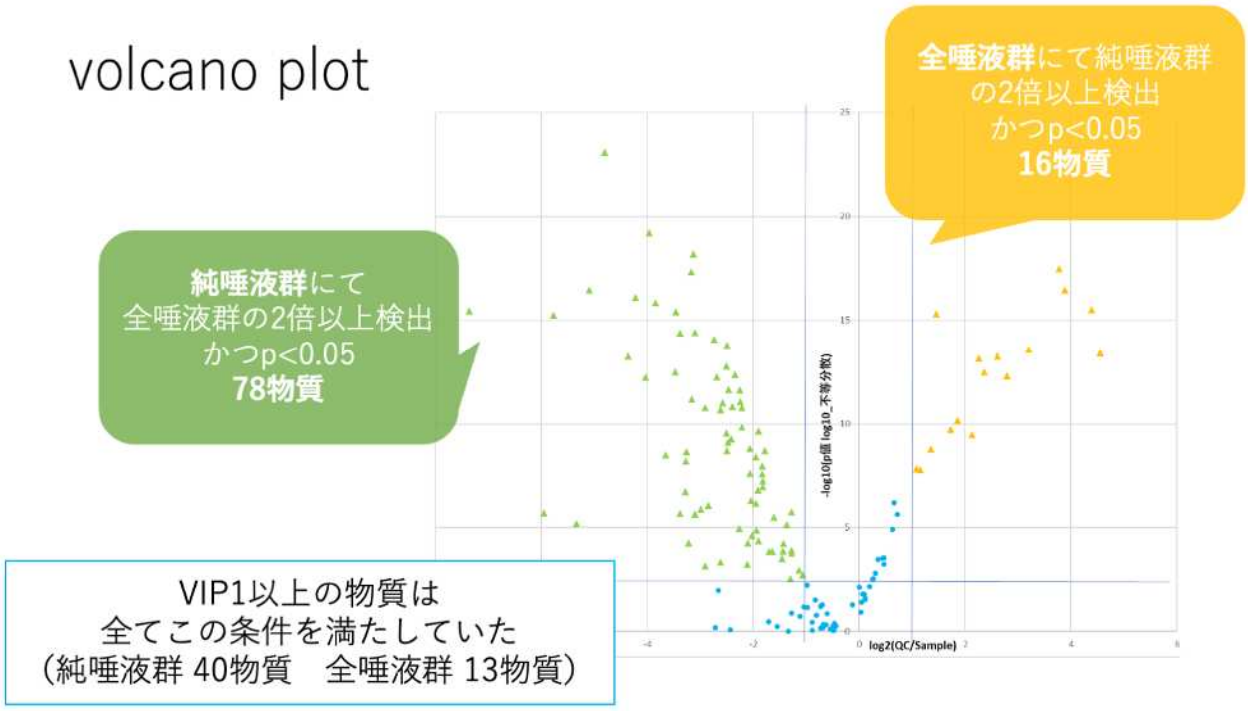
本年度は、異なる方法で採取した唾液（吐出全唾液と舌下腺・顎下腺純唾液）を比較検討し、対象疾患別に異なる唾液採取方法の至適化を進めた。

全唾液と舌下腺／顎下腺純唾液のメタボロームプロファイルの異同の検討

口腔微生物叢の直接的混入のない舌下腺・顎下腺純唾液については、舌下腺・顎下腺開口部より直接濾紙に吸収させて採取した。口腔微生物の影響を反映する全唾液については、吐出法にて回収した。各サンプルについてGC/MSによるメタボローム解析を実施し、全唾液と舌下腺／顎下腺唾液のメタボロームのプロファイルの異同を検討した。その結果、それぞれの唾液を特徴付けるメタボライトが明らかとなった。

本研究では、従来の唾液メタボロミクス研究に用いられていた全唾液解析方法とは異なり、より宿主の全身状態を反映する可能性の高い唾液腺純唾液の微量解析方法を開発することに成功した。また、開発したメソッドを用いて実際に成人ボランティアの全唾液と純唾液の代謝物プロファイルの比較を行い、その違いを示した。純唾液を特徴づける物質にはこれまで全身疾患のバイオマーカーとして報告されてきた物質が含まれている一方、全唾液を特徴づける物質には我々のグループがこれまで明らかにしてきた歯周疾患の重症度と連関するバイオマーカーが含まれていた。本研究により、スクリーニング対象とする疾患ごとに唾液サンプル採取方法を至適化する必要性が示唆された。

上記概要・成果に関連する図表等



当該臨床研究が「口の難病プロジェクト」に関連しているか否か下記のＢＯＸのいずれかにチェックを付してください。（塗りつぶし可）

☑　関連がある

☐　関連はない